

第48回 令和7年6月23日（月）

金曜日に昔の教え子たちと久しぶりに会いました。

バスケットの教え子と、たまに会って食事をしたりすることがあります。何年前の教え子なのかによって話題は様々ですが、共通しているのは大抵「驚く」ことが多いことです。高校時代に想像もつかなかった職業に就いている教え子がいて、その話を聞くのがとても楽しみです。

今回会った教え子たちはちょうど現在30歳になるかならないかというところです。一人は他県からわざわざ来てくれて実家に子どもを預けて会いに来てくれました。もう一人は商社に勤めていて、月に1回中国の工場を視察に行っているそうです。中国語に興味を持ったことでこのような職業を選んだということでした。

ふたりとも元気そうなのが何よりでした。教員になった教え子とは顔を見かける機会もあるのですが、職業が違うとなかなか会うことができません。それでも昔の顧問を慕ってこのように会いに来てくれると、長年部活を頑張ってきてよかったなと思います。

教え子の中には卒業以来会っていない生徒もたくさんいますから、このような機会に近況報告を聞くのが楽しみです。苦労している生徒もいますし、驚くような人生を送っている生徒もいます。どの生徒も健康に気をつけて元気に活躍してほしいと思います。どんな人生でも評価は自分がすべきなので、良いとか悪いとかはありません。

前に進路について相談を受けたこともありましたが、私の答えはいつも「自分で決めること。それが一番後悔しない。」ということです。どんなにびっくりするような話でも、すぐに否定することはありません。人に迷惑をかけず、生命の危険がないようなことなら基本的にチャレンジしてみたいほうがいいと思っています。

教え子の一人は漫画家になっているそうです。少年誌でバスケマンガを連載していて結構売れているということでした。「この監督さん、先生がモデルなんじゃないかな」と言われましたが、そう言われるとちょっと読むのが怖い気がします。それでも絶対売上に貢献しようと思っていますので、これからも活躍してほしいと思います。

良い思い出も、嫌な思い出もあると思いますが、高校生の大切な時代に関わることができる教師という職業は本当に面白いと思います。若者が思い出を自分の財産にしてこれからの人生を歩んでいく姿を見られることは本当に幸せだと感じました。